待ち行列シンポジウム「ユビキタスネットワーク社会における情報通信サービスの設計・評価法」ルポ

情報の窓

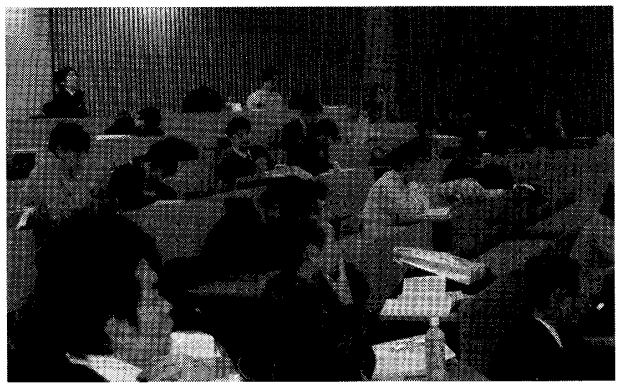
高田　寛之（長崎大学）

平成19年1月22～24日の3日間，日本大学工学部（福島県郡山市）において，2006年度の待ち行列シンポジウムが開催された．参加人数は80名を超え，一般講演30件（ペーパーセッション6件を含む），特別講演2件の発表があった．詳細は待ち行列研究部会のホームページhttp://queue.nztl.cs.gunma-u.ac.jp/からリンクを辿っていけるので参照されたい．今年度のシンポジウムではユビキタスネットワークをテーマにしたこともあり，これに関連する講演が多数見られた．以下，シンポジウムの講演に関する内容を筆者の独断と偏見で抜粋し，簡単に紹介したいと思う．

特別講演は2人の講師を迎えた．初日の特別講演では斎藤氏（NTT未来ねっと研究所）から，待ち行列，トラフィック理論研究者が活躍できる可能性がある広域ユビキタスネットワークの動向について貴重な情報を提供していただいた．2日目は，住田氏（筑波大学）の特別講演が行われた．講演の前半は，博士課程の学生をどのようにして集め，どう運営していくのが良いかという話題から始まり，後半では，タイトルである到着過程の統一モデルについて述べられた．住田氏は特別講演だけでなく，一般講演においても活発に質問されていた．表現や話題に違いはあれ，どちらの講演も若い世代への熱いメッセージが印象的であった．

中出氏（名古屋工業大学）や牧野氏（元東京理科大学）の講演では，新聞売り子問題の拡張問題や応用問題について述べられた．特に興味深かったことは，生産者側最適価格と販売者側最適価格の和と全体最適価格の比が（販売価格に依存する）需要分布よりもむしろ販売価格に対する需要の敏感さに強い影響を受けているという結果である．豊泉氏（早稲田大学）の講演では，スズメ蜂の女王とその世話をする働き蜂（メス）が作り出す階級ネットワークについて述べられた．生物モデルに対し待ち行列的アプローチは斬新なアイディアだと思う．

太田氏（神奈川大学）や原田氏，太田氏，紀氏（神奈川大学）の講演では，SIPサーバの輻輳制御における制御パラメータの評価やユーザクライアント間の公平さの関係について報告された．また篠塚氏，三好氏（東京工業大学），塩田氏（千葉大学）の講演では，マーキング方式によるIPトレースバック技術において，発信元が詐称されている可能性がある攻撃元を特定するのに必要な攻撃パケットの総数を調べる問題について報告がなされた．



会場風景

アドホックネットワークに関連して，中野氏，宮北氏，仙石氏，篠田氏（新潟大学，中央大学），上原氏，高橋（美）氏，高橋（幸）氏（東京工業大学，高崎経済大学），豊田氏，竹中氏（日本大学）の3講演が行われた．特に興味深かったことは，バッテリー残量をホップとみなしたルーティングプロトコルである．無線環境では有線環境と異なる指標が重要になりうる．それに見合ったモデル化（特に確率分布）が必要であろう．

全ての講演について紹介しきれなかったが，いずれの講演でも，白熱した討論が行われ，実りの多い研究交流の場となった．最後に本シンポジウムを実行するにあたり，色々とお世話をして下さった実行委員長の小野里氏，河西氏（群馬大），世話人の竹中氏（日本大学），運営委員の皆様，郡山コンベンションビューロの皆様に感謝の意を表明したい．